

小学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

国

語

東京都教職員研修センター

目 次

全体研究主題及び研究の概要	
1 研究主題設定の理由	1
2 研究主題についての基本的な考え方	1
3 研究構想図	2
4 分科会の研究構想	3
各分科会の実践	
授業実践の概要	4
低学年分科会の実践	7
第2学年 「サンゴの海の生きものたちのかかわり合いを見つけよう」	
中学年分科会の実践	10
第3学年 「つたえよう、めだかのひみつ」	
高学年第1分科会の実践	14
第5学年 「考えよう、わたしたちの未来を」	
高学年第2分科会の実践	17
第6学年 「生き物のつながりを考えよう」	
研究の成果と課題	20
資料	
1 「説明的文章を読むこと」に関する意識調査	21
2 「論理的な思考力を育てる読むこと」の評価規準表	24

要 約

急速に進む社会変化に伴い価値観が多様化する中で、相手の考えを理解したり、自分の考えを伝えたりするための論理的な思考力を育てることが課題となっている。その解決には、説明的文章を通して内容を理解する力を育て、論理の展開の仕方を学ばせることが有効である。それに加え、個に応じた指導と評価を工夫することで確実に学ばせていく。そこで、本研究の主題は「論理的な思考力を育てる個に応じた指導の工夫～『説明的文章を読むこと』を通して～」とした。研究内容として 論理的な思考力を育てる指導の工夫 個に応じた指導と評価の工夫を挙げ、「論理的な思考力を育てる読むこと」の評価規準表を作成して、学習過程や学習活動、一人一人の学習状況に応じた指導を工夫して、授業を通じた実践的な研究を行った。

全体研究主題及び研究の概要

全体研究主題

論理的な思考力を育てる個に応じた指導の工夫
～「説明的文章を読むこと」を通して～

1 研究主題設定の理由

文化審議会国語分科会による「これからの時代に求められる国語力について」(平成16年2月)には、「今後の国際化社会の中では、論理的思考力(考える力)が重要であり、自分の考えや意見を論理的に述べて問題を解決していく力が求められる。」とある。価値観の多様化、国際化が進展している社会状況では、互いの考えを言葉で伝え合い、相互理解を深めながら人間関係を形成していく力が必要である。そこで、相手の考えを的確に理解し、自分の考えを筋道を立てて組み立てるための論理的な思考力を育てることを研究の中心とした。

研究を進めるにあたっては説明的文章を取り上げることにした。それは、一つには、説明的文章は読み手に分かりやすく伝えるために論理的な構成になっており、論理的な思考力を育てるのに適していること、二つには、筆者の考えやその根拠を読み取る学習を通して、自分の考えを構築するための論理的な思考力を身に付けることができることからである。

しかし、本研究で行った意識調査によると、7割近い児童が説明的文章より文学的文章を好んでおり、この傾向は学年が上がるにしたがって顕著になっている。また、説明的文章の指導については、7割近い教師が「読む力の個人差への対応」が一番難しいと回答していて、二番目に「児童が自分の考えをもつこと」が難しいことを挙げている。これらのことから、児童一人一人が発達段階に応じて、自分の考えをもちながら読むことができる学習過程や学習活動の工夫が、必要であると考え。そのためには、指導のねらいと評価規準を明確にして児童一人一人の学習状況をつかみ、個性や習熟の程度に応じた指導を行うことが必要である。

以上のことから、本研究では説明的文章の読みを通して、論理的な思考力を育てるとともに、個に応じた指導を通してその力をより確かに定着させるために上記の主題を設定した。

2 研究主題についての基本的な考え方

研究主題のとらえ方

(1)「論理的な思考力」とは、次のようにとらえた。

事実や意見等を区別して読み取る力

筆者の意見等を支える根拠や理由を読み取る力

文章の構成や論理の展開に沿って内容を読み取る力

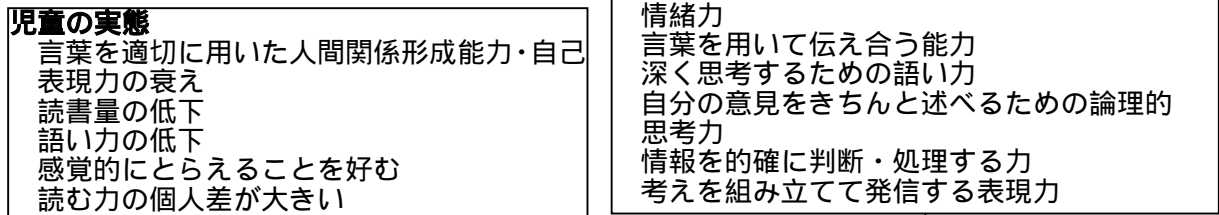
事実や根拠に基づいて自分の考えをもつ力

(2)「個に応じた指導」とは、評価を生かし、一人一人の学習状況に応じた工夫をする指導であるととらえた。なお、「個に応じた指導」の内容としては以下の2つがあると考え。

・個別性に応じた指導・・・一人一人の読む力に応じた支援を行い、基礎的基本的内容を確実に定着させる指導

・個性に応じた指導・・・一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす読みの指導

3 研究構想図



今年度の教育研究員共通テーマ
 「個に応じた指導の一層の充実」

研究主題
論理的な思考力を育てる個に応じた指導の工夫
 ～「説明的文章を読むこと」を通して～

目指す児童像

読みの課題をもち、進んで読む子
 言葉を手がかりに内容を読み取る子
 文章の組み立てが分かる子
 自分の考えをもつ子

研究の仮説

説明的文章を読むことにおいて、言葉や文章構成などを手がかりに筋道を立てて筆者の考えをとらえ、自分の考えをもつことができるよう指導計画や指導方法を工夫すれば、論理的な思考力が育つであろう。
 また、一人一人の学習状況に応じて指導を工夫すれば、より確かに論理的な思考力が育つであろう。

研究の内容

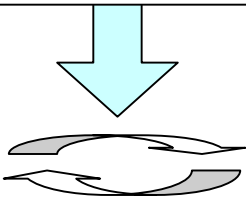
論理的な思考力を育てる指導の工夫 発達段階に応じた説明的文章の読みにおける論理的な思考力を明確化し、学習過程や学習活動を工夫する。	個に応じた指導と評価の工夫 育てたい力を明確にした評価規準を基に自己評価を含めた評価計画を立て、一人一人の学習状況に応じた指導の工夫・改善を行う。
---	---

基礎研究として「論理的な思考力を育てる読むこと」の評価規準を作成（巻末参照）

分科会研究主題

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会（第一・第二）
大事な言葉をおさえて、自分の思いを膨らませながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫	内容の中心をおさえて、自分の感想や意見をもちながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫	要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫

検 証 授 業



成 果 と 課 題

4 分科会の研究構想

	低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会(第一・第二)
研究主題	大事な言葉をおさえて、自分の思いを膨らませながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫	内容の中心をおさえて、自分の感想や意見もちながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫	要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫
研究主題のとらえ方	<p>「大事な言葉をおさえて読む」とは 順序や内容を表す大事な言葉をおさえて読むこと。</p> <p>「自分の思いを膨らませながら読む」とは 語句や表現から様子や事柄を思い浮かべ、疑問や感想もちながら読むこと。</p>	<p>「中心をおさえて読む」とは 中心となる語や文をとらえながら要点をまとめ、段落相互の関係を考えて文章を正しく読むこと。</p> <p>「自分の感想や意見もちながら読む」とは 読み取った内容に沿って、友達と感想や意見を交流することで共感したり、疑問をもったりしながら読むこと。</p>	<p>「要旨をとらえる」とは 事象・感想・意見の関係をおさえながら、筆者の主張を理解すること。</p> <p>「自分の考えを明確にしながら読む」とは 自分の立場から、筆者の意見についてどのように考えるか意識しながら読むこと。</p>
目指す児童像	<p>読みの課題が分かり楽しく読む子</p> <p>言葉を手がかりに内容の大体を読む子</p> <p>文章のまとめや順序が分かる子</p> <p>叙述を基に、自分の思いを膨らませる子</p>	<p>読みの課題を見付けて読む子</p> <p>内容の中心となる語や文をとらえて読む子</p> <p>段落相互の関係を考えて読む子</p> <p>読み取った内容について、自分の感想や意見をもつ子</p>	<p>自ら読みの課題をもち、進んで読む子</p> <p>言葉を手がかりに文章を的確に読み取り、要旨をとらえる子</p> <p>筆者が用いた論理の展開のよさが分かる子</p> <p>自分の考えを明確にしながら読む子</p>
研究内容	<p>論理的な思考力を育てる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの課題が分かり、興味をもって読み進めるための学習過程の工夫 ・大事な言葉や文章のまとめをおさえて読む力を身に付けさせるための学習活動の工夫 ・自分の思いを膨らませ互いに分かり合うための表現活動や場の工夫 <p>個に応じた指導と評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の読む力に応じたワークシートを用いる指導の工夫 ・身に付いた力や学習への取り組み方が分かる自己評価カードの工夫 ・効果的な言葉かけを行うための個別支援計画の工夫 	<p>論理的な思考力を育てる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的をもって読み進めるための学習過程の工夫 ・内容の中心をとらえる力を身に付けさせるための学習活動の工夫 ・思考の過程が見えるワークシートや学習方法の工夫 ・読み取った内容に沿って自分の感想や意見もち、広げる場の設定の工夫 <p>個に応じた指導と評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の読む力や関心に応じた指導の工夫 ・児童自身が読みのめあてを選び、振り返る自己評価カードの工夫 ・前時までの評価を生かした個別支援計画の工夫 	<p>論理的な思考力を育てる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を確認し、自らの読みの課題をもたせるための学習過程の工夫 ・文章構成について理解し、自分の考えをもつための学習活動の工夫 ・自分の考えを明確にしながら読み深めるための教材・教具の工夫 ・自分の立場を明確にし、他の考えと比べて自分の考えを広げ、深める場の設定の工夫 <p>個に応じた指導と評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の読む力や課題、関心に応じた指導の工夫 ・児童が学習を振り返り、次の課題を明確にするための自己評価カードの工夫 ・一人一人の学習状況に応じた指導を行うための個別支援計画の工夫

各分科会の実践

授業実践の概要

1 論理的な思考力を育てる指導の工夫

(1) 学習の流れの明確化

説明的文章の学び方を整理して明確に示す。単元の学習課題や学習活動を焦点化し、学び方を身に付けさせる。学習手順の説明が省けるようになり、読む時間の確保につながる。

	低学年	中学年	高学年
過の 一程 学単 習元	・大事な言葉に色分けして印を付ける。	・大事な文や言葉を読み取り、問い答え(Q&A)にまとめる。	・問題提示文で示された内容を追究する。 ・各段落の要点をまとめる。
活間一 動の単 学位 習時	・サイドラインを引く ・話し合う ・自分の考えを書く ・交流する ・自己評価する	・サイドラインを引く...段階を追って (2)参照 ・交流する...グループで 交流コーナーで ・話し合う...全体で確認すべき指導事項について ・自分の考えを書く...学習課題に対して・筆者の考えに対して ・自己評価する...観点を明確にして 2(3)参照	

(2) 言葉を手掛かりに読み深めるためのサイドライン

読み取りの手掛かりになる最重要語句に一度で線を引くことは難しい。児童が線を引きやすくするとともに、段階を追って読みが深まっていくよう、線を引く手順を工夫する。

	低学年	中学年	高学年
線 を 観 点 引 く	・話題となる具体物の特徴 ・話題となる具体物の言い換えの言葉	・内容の中心にかかわる語や文 ・筆者の考えや言葉が表れている文	・要点につながる語や文 ・論理の展開を示す言葉
線 を 手 順 引 く	黒...自分で考えて 赤...皆で話し合い確認して	黒...自分で考えて 青...友達の発言を聞いて 赤...皆で話し合い確認して	黒...大事だと思ふ言葉に 青...自分で読み返して、大事だと思ふ言葉に 赤...皆で大事な所を確認して

(3) 文章構成の理解

発達段階に応じて、文章のまとめりや段落相互の関係をとらえ、筆者の論の展開を理解する。そのための学習活動を工夫する。

	低学年	中学年	高学年
学 活 動	接続語を手掛かりとして、文や段落相互のつながり方(Q&A)にまとめる。	問いとそれに対する答え	意味段落に分けて文章構成を図に表し、それを生かして要約する。
手把構 だ握成 てのの	話題となる事例ごとに、重要語句に囲みや傍線などを色分けして書き込む。	大事な文や言葉を問いと答えにまとめることで段落相互の関係を理解する。	要点や要旨の付箋の操作をし、段落相互の関係と内容の軽重を考えやすくする。

(4) 「論理的な思考力を育てる読むこと」の評価規準表

系統的に論理的な思考力を育てるための「読むこと」の評価規準表を作成した。学習指導案においても評価規準を中心におく形式をとることで、目標に照らして重点となる学習活動が明確になる。

指導案の形式

目標と評価規準のつながりが明らかになり、より具体的な評価規準を立てることができる。

時間	各時間の目標	学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)	主な学習活動, 研究主題に迫るための手だて

2 個に応じた指導と評価の工夫

(1) 学習形態・学習方法の多様化

習熟の程度や意欲をもちやすい学習形態に応じて、児童が選択肢をもちながら学習を進められるようにすることで、より児童の個性・個性に合った学習ができるようになる。

ア グループ別学習

同じ学習のねらいに対して、学習活動の難易度や学習形態を変えることで個々の児童に対応する。

- ・学習の流れや方法を確認し見通しをもたせる。
- ・自己評価を基に、自分でグループを選択させる。

個々の習熟の程度や学習課題、意欲に応じた学習活動ができる。

全体指導、個別指導に加え、グループ別の指導を組み合わせた効果的な指導ができる。

例

手引きを基に要点のまとめ方を確認
はじめの段落の要点をまとめる

一人で学習を進めるグループ

段落の要点をまとめる。
小見出しをつける。
文章構成を表す図を工夫して作る。

友達と話し合いながら学習を進めるグループ

段落の要点をまとめる。
ワークシートを活用して文章構成を表す図を作る。

このほかにも、友達同士で意見交換する「交流コーナー」や教師が個別に指導する「質問コーナー」の設定を組み合わせ、より効果的に個に応じた指導ができるようにする。

イ 学習カードの活用 手引き ヒントカード ワークシートの選択

単元の学習に合わせた「学習の手引き」を用意し、基礎的な学習内容や学習の進め方を確認させる。さらに支援が必要な児童には、ヒントカードを与えて自力解決を図らせる。自力解決につまずいている場合には、教師が個別指導にあたる。また、ワークシートを数種類用意し、児童の課題解決方法への興味・関心やヒントの必要性に応じて選択できるようにする。

(2) 個別支援計画表（座席表型）

前時までの評価からその時間の目標を設定する。
ねらいと学習状況に基づき、予想される支援を計画する。
机間指導により評価しながら支援する。

児童名			児童名		
1	2	3	1	2	3
ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
A	B		A	B	

児童名			児童名		
1	2	3	1	2	3
ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
A	B		A	B	

めあて（例）

- 1 自分の作った文章構成を表す図について発表する。
- 2 各段落の要点のつながりと軽重を考え要約する。
- 3 各段落の要点をつなげて要約する。

支援（例）

- ア 各段落の役割を確認させる。
- イ 文章構成を表す図を確認させ、問題に対する答えとその根拠3点に着目させる。
- ウ 各段落の要点をつなぐ言葉を考えさせる。

評価 観察児童を絞って活用する

(3) 自己評価カード

毎時間自己評価カードへの記入を行い、個々の学習意欲や課題意識の高揚を図る。

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
自己評価のねらい	学習の満足感を味わわせ、次時の学習への意欲付けをする。	課題意識を高めるとともに意欲付けをする。	学習のめあてに即して自己の学習状況をとらえさせ、課題を明確にする。
記入内容	・観点ごとに ・次時の課題を選択	・観点ごとに ・次時の課題を選択 ・学習の感想	・めあてを観点として、学習の達成度や課題などを文章で記述

3. 検証授業の実際

分科会	検証授業の単元	研究主題に迫るための手だて	成果 と 課題
低学年	サンゴの海の生きものたちのかわり合いを見つつけよう～「サンゴの海の生きものたち」 (光村図書2年上)	【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫 具体物やキーワードカードを用い、大事な言葉をおさえる。 身に付いた力を確かめさせるために補助資料を活用する。 【工夫】個に応じた指導と評価の工夫 友達と学び合えるように交流コーナーを設ける。	具体物やキーワードカードは児童の言葉の理解を助けた。 交流コーナーでの学び合いは児童に自信を付け、同時に個別指導時間の確保にもなった。 ・交流コーナーにおいては、キーワードの吟味と支援の工夫が必要である。
中学年	つたえよう、めだかのひみつ～「めだか」 (教育出版3年上)	【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫 内容の中心をとらえる力を身に付けさせるために、重要な語句や文を見つけて、問いと答えの「Q&A」の形でまとめ、内容の中心を整理できるようにする。 【工夫】個に応じた指導と評価の工夫 自分に合った学習方法を選べるように、「先生や友達と一緒に読むグループ」と「自分たちで読むグループ」を設ける。	・「Q&A」の形は、説明文の文章構成の一つを学ぶことができた。しかし、どのような「問いQ」を出すか、検討が必要である。 ・児童は一人一人の力に合った支援を得て学習を進められたが、さらに個に応じた支援を具体化することや両グループの交流の仕方も工夫することが必要である。
高学年第一	考えよう、わたしたちの未来を～「海にねむる未来」 (光村図書5年上)	【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫 単元構成を工夫し、中心となる発問に沿って事例を比較しながら読み取らせる。 【工夫】個に応じた指導と評価の工夫 ワークシートを毎時間評価することでヒントを書き込んだり、別のワークシートを用意したりして、習熟の程度に合わせた指導をする。	学習材の特徴をつかんだ発問は、児童の意欲を高め、要旨をまとめる際に役立った。 ・別のワークシートの提示の仕方を考える必要がある。
高学年第二	生き物のつながりを考えよう～「生き物はつながりの中に」 (平成17年度版光村図書6年上)	【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫 文章構成を図に表し、段落相互の関係を考えられるようにする。 全文を要約させ、論の展開を理解させる。 【工夫】個に応じた指導と評価の工夫 「グループ別学習」により、自分に合った学び方を選択させ、より効果的な指導をする。 学習の手引きやヒントカードを活用し、主体的に学習できるようにする。	文章構成を表す図は、筆者の論の展開をとらえ、要約する際に役立った。 児童は自分に合ったグループを選ぶことで、意欲的に学習できた。 ・学習計画に合ったグループ別の活動の工夫が必要である。

低学年分科会

1 分科会研究主題

「大事な言葉をおさえて、自分の思いを膨らませながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫」

2 低学年分科会の実践 10月実施

(1) 単元名「サンゴの海の生きものたちのかかわり合いを見つけよう」

学習材「サンゴの海の生きものたち」 (光村図書 2年上)

(2) 単元の目標

大事な言葉や順序に気を付けながら、海の生き物たちのかかわり合いを読み取る。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・サンゴの海の生き物たちのかかわり合いについて大事な言葉を見付け、疑問や感想をもちながら読もうとしている。	・サンゴの海の生き物たちの様子やかかわり合いについて、大事な言葉や文章のまとまりをおさえながら読み、自分の思いを膨らませている。	・主語と述語の関係に注意して、サンゴの海の生き物たちのかかわり合いを正しく読んでいる。 ・指示語や接続語に気を付けて読んでいる。

(4) 研究主題に迫るための手だて

【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫

○大事な言葉や文章のまとまりをおさえる学習活動の工夫

◇サイドラインを引いたり色鉛筆で囲んだりして、大事な言葉や文章のまとまりに気付かせる。

◇叙述をおさえるために、具体物（絵カードや写真・挿絵など）やキーワードカードを段階的に使い言葉の理解を支援する。

○身に付いた読みの力を生かす工夫

◇補助教材を用意し単元の終わりに、身に付いた力を生かす学習を計画する。

【工夫】個に応じた指導と評価の工夫

○個別性に応じた指導の工夫

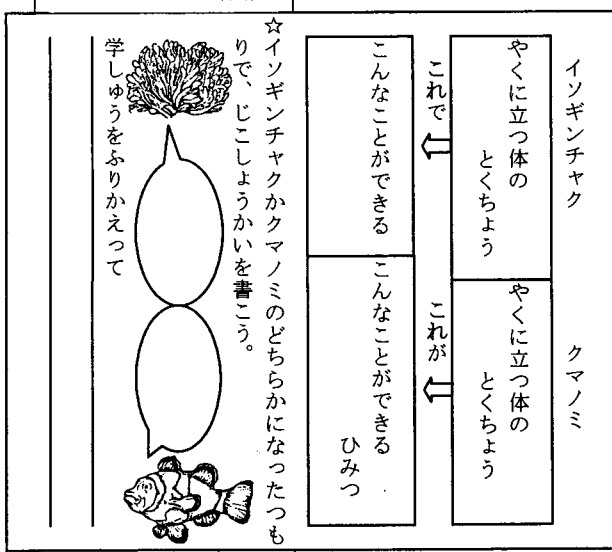
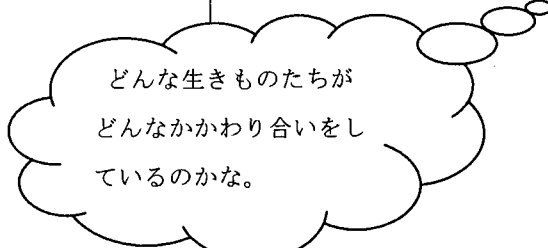
◇学習状況に応じて支援できるように、交流コーナー（教師の支援を待たずに友だち同士で確認する場）やヒントコーナー（教師の支援を借り段階的に学習する場）を設ける。

◇一人一人の読む力に対応できるワークシートを活用する。

○個性に応じた指導の工夫

◇意欲的に学習できるように、自分で「がんばりのめあて」を決め、毎時自己評価カードに記入する。

時間	各時間の目標	学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)	主な学習活動 ◇研究主題に迫るための手だて
1	<p>「サンゴの海の生きものたち」を読み、これからの読みのめあてをもつ。</p>	<p>課題提示文をとらえ、本文に即した初発の感想を書いている。(ワークシート)</p>	<p>①写真を見ながら、サンゴの海のイメージを広げる。 ◇サンゴの海の様子や生き物の写真を用意し、イメージを広げやすくする。【工夫①】</p> <p>②第1・2段落を読み、課題提示文を見付ける。</p> <p>③全文を読み、主な生き物の名前を見付ける。</p> <p>④初発の感想を書く。 ◇書き終わった児童から交流コーナーで読み合い、他の友達の考えを知り、これからの学習への思いを膨らませる。【工夫②】</p> <p>⑤自己評価カードを書く ◇自己評価を次時の個別支援に生かす。【工夫②】</p>
2	<p>第3・4段落からイソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。</p> <p>ワークシート(例)</p>	<p>イソギンチャクとクマノミの体の特徴を、大事な言葉を落とさずに書いている。(ワークシート)</p> <p>【大事な言葉】</p> <p>①…どくのはり</p> <p>②…ねばねばのえき</p>	<p>①イソギンチャクとクマノミを丸で囲み、体の特徴が分かる言葉にサイドラインを引く。 ◇生き物の名前をそれぞれ色鉛筆で囲ませ、文章のまとまりを視覚的にとらえやすくする。【工夫①】</p> <p>◇絵カードを完成させながら、生き物の特徴を表す言葉にサイドラインを引かせる。【工夫①】</p> <p>②「これで」「これが」に着目し、一番役に立つ特徴を読み取る。</p> <p>③イソギンチャクかクマノミのどちらかを選び自己紹介文をワークシートに書く。 ◇一人一人の読む力に対応できるワークシートを使い、大事な言葉を落とさずに書けるようにする。【工夫②】</p> <p>◇書き終わった児童から交流コーナーで読み合い、学習を確かめさせる。【工夫②】</p> <p>◇書き込みに戸惑っている児童には、ヒントコーナーで絵カードを操作し個別に指導する。【工夫②】</p> <p>④自己評価カードを書く。</p>
3	<p>第5・6段落からイソギンチャクとクマノミの共生の理由を読み取る。</p>	<p>イソギンチャクとクマノミがどのように守り合っているか、大事な言葉を落とさずに書いている。(ワークシート)</p> <p>【大事な言葉】</p> <p>おいはらう こわがって カチカチ</p>	<p>①出てくる生き物に印をつける。 ◇大事な言葉に印をつけて着目させる。【工夫①】</p> <p>②第5・6段落を読み、生き物がしていることを順番に読み取り、どのように守り合っているかを考える。 ◇絵カードを動かしながら、生き物がしていることと大事な言葉をおさえる【工夫①】</p> <p>③読み取ったことを、吹き出しに書く。 ◇書き込みに戸惑っている児童には、ヒントコーナーで大事な言葉を確認させる。【工夫②】</p> <p>④自己評価カードを書く。</p>



<p>4</p> <p>(本時)</p> <p>ワークシート (例)</p>	<p>第7・8・9段落からホンソメワケベラと大きな魚の共生の理由を読み取る。</p>	<p>ホンソメワケベラと大きな魚がどのようにかかわり合っているか大事な言葉を落とさずに書いている。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>【大事な言葉】 そうじしてくれる とった虫が食べもの</p>	<p>①第7段落を読み、ホンソメワケベラの体の特徴を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラの特徴を表す言葉にサイドラインを引く。 ・黒板に貼られたいろいろな魚の中からホンソメワケベラを見付ける。 <p>◇なかなかサイドラインが引けない児童には、ホンソメワケベラに似た魚の絵を見せ、違いが分かるところを考えさせる。【工夫①】</p> <p>◇掲示した「たくさんのうつくしい魚」の中から、ホンソメワケベラを見付けさせ、大事な言葉をおさえる。【工夫①】</p> <p>②第8・9段落を読んでホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出てくる生き物を見付け、色鉛筆で囲む。 ・第8・9段落に登場する生き物を発表し、ホンソメワケベラを指す言葉を確認する。 ・どの生き物が何をしているか順番に読み取り、大事な言葉とかかわり合いを確認する。 <p>◇絵カードを動かしながら、生き物のとる行動と大事な言葉をおさえ、視覚的にとらえやすいよう板書にまとめる。【工夫①】</p> <p>③読み取ったことを基に、共生の理由を吹き出しに書き、発表する。</p> <p>④本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。</p>
<p>5</p>	<p>文章の組み立てと、筆者の言いたいことをとらえる。</p>	<p>2つの事例が挙げられていることをとらえ、筆者の言いたいことが分かる。</p> <p>(ワークシート)</p>	<p>①第10段落を読み、「このように」をおさえて、文章のまとまりをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生き物の名前を色分けに着目させ、文章のまとまりに気付かせる。【工夫①】 ◇指示語に着目させ、生き物のかかわり合いの事例が2つ挙げられていることに気付かせる。【工夫①】 <p>②筆者が一番言いたいことを考える。</p> <p>③別の一例を読み、それが文章のまとまりのどこに位置付けられるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇別の一例がどこに位置付けられるか考えさせ、文章の組み立てをとらえさせる。【工夫①】 <p>④この学習をしてかかわり合いについて分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>⑤学習全体をふりかえり、読みの力の成長を「がんばりカード」に書く。</p>

※紙面の関係上、ワークシートは必要な部分だけ載せ、授業で使ったものを一部改定しています。

(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だてについて)

	成 果	課 題
サイドライン	○サイドラインを引くことは、叙述に即した読みを促し、大事な言葉を落とさずにワークシートに書くことに有効であった。	
色分け	○登場する生き物の名前を種類ごとに色分けして囲ませたことは、文章のまとまりを視覚的にとらえることに有効であった。	・視覚的にとらえやすく、作業時間を短縮するためには、使用する色を吟味し数を絞る必要がある。

具体物	○具体物（絵カードや写真・挿絵など）やキーワードカードを使ったことは、児童の言葉の理解を大きく助け、叙述をおさえて自分の考えを書くときのよりどころとなった。	
補助資料	○補助資料「エビとハゼ」を用意し、学習材の中で位置付けを考えさせたことは、「はじめ、中、おわり」の組み立てをとらえるのに有効であった。	
交流コーナー	○交流コーナーで児童が友達と学び合えることは、児童の自信につながると共に、教師が個別指導の時間を確保する上でも有効であった。	・キーワードを提示することでワークシートに書く表現が画一的になることもあったので、提示したキーワードの吟味と、支援の工夫をする必要がある。
チャレンジ問題	○チャレンジ問題を用意することは、読み取る力のある児童や作業の早い児童に対して大きな意欲付けとなった。	・次々に問題を解くだけでなく、一つの課題にじっくりと取り組み、深く理解できるようにすることも考え、使い方をさらに検討する必要がある。
自己評価カード	○自分で毎時の「がんばりめあて」を決め、それができたか自己評価したことにより、学習への大きな意欲付けとなった。	

中学年分科会

1 分科会研究主題

「内容の中心をおさえて、自分の感想や意見をもちながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫」

2 中学年分科会の実践 9月実施

(1)単元名「つたえよう、めだかのひみつ」

学習材「めだか」（教育出版 3年上）

(2)単元の目標

家の人にめだかの秘密を伝えるために、大事なことを落とさず、めだかの身の守り方や自然の厳しさに耐える体の仕組みを読み取り、感想をもつ。

(3)単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・家の人にめだかの秘密を伝えるために、進んで読もうとしている。	・家の人にめだかの秘密を伝えるために、大事なことを落とさずめだかの身の守り方や体の仕組みを読み取り、感想をもっている。	・指示語や接続語や文末表現を手がかりとして、問題や話題が提示されている段落と、答えが書かれている段落を理解している。

(4)研究主題に迫るための手だて

【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫

○目的をもって読み進めるための学習過程の工夫

◇「つたえよう、めだかのひみつ」を読みの課題とし、家の人に伝えるという目的をもって読み進める学習過程にする。

○内容の中心や段落相互の関係をとらえる力を身に付けさせるための学習活動の工夫

◇重要な語句や文を見つけてQ&Aの形でまとめたり、小見出しをつけたりする。

○思考の過程が見えるワークシートや学習方法の工夫

◇重要な語句や文に色別のサイドラインを引かせて、自分と友達の違いを比べることができるようにする。

○読み取った内容に沿って自分の感想や意見を持ち、広げるための場の設定と工夫

◇交流コーナーをつくり友達の感想の良さに気付けるようにする。

【工夫】個に応じた指導と評価の工夫

○一人一人の読む力や興味に応じた指導の工夫

◇第2～4時間目は繰り返し学習を組み、第3～4時間目は「先生や友達と一緒に読むグループ」と、「第2時の学習を生かして自分たちだけで読むぐんぐんグループ」に分け、自分で学習方法を選べるようにする。

◇段落ごとのヒントカードを用意し、自分で読み進めることができるようにする。

○自己評価カードの工夫

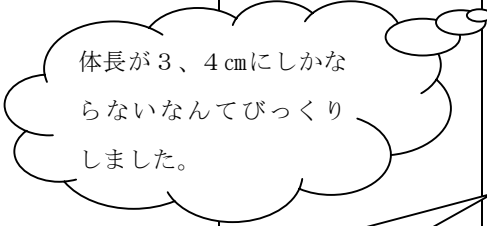
◇児童自身が読みのめあてを選び、振り返る自己評価カードを毎時間活用し、次時への学習意欲が高まるようにする。

(5)学習指導計画・評価計画（6時間扱い）

（検証授業の本時 4 / 6）

時間	各時間の目標	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）	主な学習活動 ◇研究主題に迫るための手だて
1	「めだか」を読み、学習活動を立てて読みの課題をもつ。	読みの視点にそって心に残ったことを見つけ感想を書いている。 (記号・短冊・発表)	①めだかについて知っていることや経験を発表する。 ②めだかの全文を読み、形式段落に分け、初発の感想を書く。 ③読みの課題を持ち、学習計画を立てる。 ◇見付けためだかのひみつをクイズにして家の人に伝えようと呼びかけ、学習の進め方を示すことで、見通しをもてるようにする。【工夫①】 ④次回の学習を確認し、読みのめあてを決める。 ◇めあての例から自分の力に合ったものを選べるように助言する。【工夫②】
2	第2～4段落を読み、めだかの様子を読む。	めだかの様子を表す語や文に赤のサイドラインを引き、Q&Aに書き出している。 (サイドライン・発言・Q&A)	①読みの課題とめあてを確認する。 ②めだかを紹介するのに必要な言葉を読み取ってQ&Aに書く。 学習の流れA 1 自分でめだかのひみつに関わる重要な語句や文を見付ける。 2 友達の意見を聞いて考える。 3 話し合って重要な語句や文を決める。 4 Q&Aに書く。 ◇重要語句を見付ける観点をヒントカードに示す。【工夫②】 ◇重要語句に色別のサイドラインを引かせて自分と友達の読みを比べることができるようにする。 自分：黒、友達：青、話し合って決定した言葉：赤【工夫①】 ③小見出しをつける。 ◇Q&Aの内容をまとめる言葉を考えて小見出しを書くように助言する。【工夫①】

Q	めだか	どのような魚ですか。
A	春になると出てきます。	たいへん小さな魚です。体長は三、四センチメートルにしかなりません。

	 <p>体長が3、4cmにしかならないなんてびっくりしました。</p>		<p>④感想を書き、交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習の流れB</p> <p>1 感想を書き、友達と読み合う。 2 感想を発表し合う。</p> </div> <p>◇交流コーナーで友達と感想を伝え合って互いのよさに気付けるようにする。【工夫①】</p> <p>⑤第3、4段落からめだかの敵と課題提示文を見付け、次回の読みの課題をつかむ。</p> <p>⑥自己評価をし、次回の読みのめあてを決める。 ◇本時のめあてを達成したか振り返らせ、自分の力に合った次時間のめあてを決めるように助言する。【工夫②】</p>		
3	<p>第5～8段落からめだかの身の守り方を読む。</p>	<p>身の守り方について読みとったことをもとに、視点にそった具体的な感想を書いている。 (感想・発言)</p>	<p>①読みの課題とめあてを確認する。 ②第5～8段落から答えの文を見付け、Q&Aに書く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>ぐんぐんグループ (自分たちで読む)</p> <p>学習の流れA</p> <p>1～4 5 選んだ文を発表する。 6 小見出し作り</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>すくすくグループ (先生や友達と一緒に読む)</p> <p>学習の流れA</p> <p>1～4</p> </td> </tr> </table> <p>◇ぐんぐんグループへ すくすくグループへ ◇ぐ：学習の進め方カードを用意し、自分たちで読み進められるようにする。【工夫②】 ◇ぐ、す：答えの文の見付け方をヒントカードに示す。【工夫②】</p> <p>③感想を書き、交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習の流れB</p> <p>1～2</p> </div> <p>◇交流コーナーで友達と感想を伝え合って互いのよさに気付けるようにする。【工夫①】</p> <p>④第9段落から話題提示文を見付け、次回の読みの課題をつかむ。</p> <p>⑤自己評価をし、次回のめあてを決める。 ◇本時のめあてを達成したか振り返らせ、自分の力に合った次時間のめあてを決めるように助言する。【工夫②】</p>	<p>ぐんぐんグループ (自分たちで読む)</p> <p>学習の流れA</p> <p>1～4 5 選んだ文を発表する。 6 小見出し作り</p>	<p>すくすくグループ (先生や友達と一緒に読む)</p> <p>学習の流れA</p> <p>1～4</p>
<p>ぐんぐんグループ (自分たちで読む)</p> <p>学習の流れA</p> <p>1～4 5 選んだ文を発表する。 6 小見出し作り</p>	<p>すくすくグループ (先生や友達と一緒に読む)</p> <p>学習の流れA</p> <p>1～4</p>				
4 (本時)	<p>第9～13段落からめだかの体の仕組みを読む。</p>	<p>体の仕組みが書いてある文に赤のサイドラインを引き、Q&Aに書き出している。 (サイドライン・発言・Q&A)</p>	<p>①読みの課題とめあてを確認する。 ②自然の厳しさの事例を見付ける。 ③自然の厳しさに耐える体の仕組みを見付け、Q&Aに書く。【グループ別学習(第3時と同じ流れ)】 ④感想を書き、交流する。【学習の流れ(前述)1～2】 ⑤自己評価をし、次回のめあてを決める。</p>		
5	<p>第14段落から筆者の考えを読み、文章全体の構成を考える。</p>	<p>他の段落との関係をおさえて、筆者が伝えたいことを具体的に書いている。 (吹き出し・発言)</p>	<p>①読みの課題とめあてを確認する。 ②他の段落との関係を考え、ワークシートに書きこむ。 ③筆者が伝えたいことを読み取り、吹き出しに書く。 ④第2～4意味段落の小見出しをつける。 ⑤目次をつくる。 ⑥自己評価をし、次回のめあてを決める。</p>		

ヒントカード

こんな言葉に注目してみよう！

④ ③ ② ①
第四に、 第三に、 第二に、 まず第一に、

6	これまでの学習をまとめ、家の人に伝える準備をする。	読みとった内容をもとに視点に沿った感想や自分の読みの変容について具体的に書いている。(感想・発言)	①読みの課題とめあてを確認する。 ②全文を読んで感想を書き、交流し、初発の感想と比べる。 ◇交流コーナーで友達と感想を伝え合ったり、初発の感想と比べて自分の読みの変容に気付くことができるようにする。【工夫①】 ③ペアで家の人に伝える練習をする。 ④単元全体を振り返り、自己評価をする。
課外	おうちの人にめだかのひみつを伝え、感想を書いてもらう。		

(6) 検証授業の成果と課題（研究主題に迫るための手だてについて）

	成 果	課 題
目的	○「つたえよう、めだかのひみつ」とし、常におうちの人に伝えるという明確な目的をもつことは、大事な言葉を落とさずに読み取ろうとする意欲を高めることができた。	
Q & A	○説明的文章の一形式である「問いかけの文章と答えの文章」の構成を学ぶことができた。 ○内容の中心のとらえ方を学ぶことができた。	・Q&Aを出す際に、どのようなQを出すかが重要になってくる。Qの検討が必要になってくる。
サイドライン	○重要な語句を見つけてサイドラインを引くときに黒→青→赤と段階を踏んで学習を進めることで、思考の過程をワークシートに残すことができた。	
学習の流れ	○学習の流れを明確化し、繰り返すことによって、子どもたちに学習の流れが身に付いてきた。	
板書計画	○本文を拡大し、常に板書として提示することで、サイドラインや、言葉や文のつながりを示すことができた。	・児童がどの言葉に着目したかがわかるような板書計画をたて、工夫することは、児童の思考を整理し、より論理的な思考力を育てることができる。
感想	○「交流コーナー」で感想を友だちと交換し合うことで、お互いの考えを知ることができた。	・感想は読み取った内容に沿って相手意識や、目的意識をもって書くと自分の学んだことを確かめることにもつながる。
グループ学習	○「先生や友達と一緒に読むグループ」と「自分たちで読むグループ」に分けることで、自分の力にあった支援を得て学習を進めることができた。 ○「自分たちで読むグループ」では、二人組みでの学習を取り入れることで、意見の交流や学習の確かめを効率よく進められた。	・時間配分を見直し、全体の学習をよりテンポアップすることで、自ら学ぶ力をさらに伸ばすことができる。 ・「自分たちで読むグループ」への支援をもう少し考える必要がある。 ・両グループの交流をする時間などを確保する。
ヒントカード	○大事な言葉を見つけるためのヒントカードは内容の中心をおさえる力を育てることに役立った。 ○小見出しのつけ方や学習のチェックカードなどのヒントカードを有効活用することによってさらに学習を深めていくことができた。	
自己評価カード	○自分のめあてを選び、振り返る自己評価カードは学習意欲を高めることに役立った。	

高学年第1分科会

1 分科会研究主題

「要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらかむ力を育てる個に応じた指導の工夫」

2 高学年第1分科会の実践 7月実施

(1) 単元名 「考えよう、わたしたちの未来を」

学習材 「海にねむる未来」 (光村図書 5年上)

(2) 単元の目標

文章の内容や構成を押さえながら要旨をとらえ、自分の考えをもち読み進める。

興味をもちながら文章を読み、未来について考えようとする。

事例を扱った段落を中心に構成してあることに気付き、文や文章の構成を理解する。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「海にある宝物」をさがすために、三つの事例を比べながら内容を読み取ろうとしている。	・三つの事例を読み取り、筆者が述べたい中心の考えを押さえ、要旨をとらえている。 ・自分の考えをもちながら読んでいる。	・事例を扱った段落を中心に構成してあることに気付き、文や文章の構成を理解している。

(4) 研究主題に迫るための手だて

【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫

既習事項を確認し、自らの読みの課題をもたせるための学習過程の工夫

単元の前半で、第3学年及び第4学年で経験した意味のまとまりを考える学習活動を行う。

これにより、「意味段落」についての理解を確認することができる。

文章構成について理解し、自分の考えをもつための学習活動の工夫

自分で考えて引く線は黒または青で、みんなで話し合いながら数を絞った重要語句には赤で線を引く。これにより、各個人が自分の読みを視覚的に確かめることができる。

自分の考えを明確にしながらかみ深めるための教材・教具の工夫

各事例に対する自分の感想を付箋に記入しワークシートに貼る。単元の終末で自分の意見を書くときに、これまでに書いた付箋を活用していく。

自分の立場を明確にし、他の考えと比べて自分の考えを広げ、深める場の設定の工夫

「交流コーナー」を設け、互いに意見文を読み合う場を設ける。

【工夫】個に応じた指導と評価の工夫

一人一人の読む力や課題、関心に応じた指導の工夫

ワークシートを毎時間評価する。一人一人の読みを見取り、ヒントを書き込む。

児童が学習を振り返り、次の課題を明確にするための自己評価カードの工夫



各時間の学習内容に対して、振り返りの自己評価(4段階)を行う。



一人一人の学習状況に応じた指導を行うための個別支援計画の工夫

書き込みに戸惑っている児童には、教科書の本文をそのまま抜き出すだけの別のワークシートを用意する。習熟している児童には論の展開などを読み取る学習に取り組ませる。

(5)学習指導計画・評価計画(5時間扱い)

(検証授業の本時 3 / 5)

時間	各時間の目標	学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)	主な学習活動 研究主題に迫るための手だて
1	<p>「海にねむる未来」を読み、これからの読みのめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・海にある宝物ってなんだろう。カプトガニの血液のことかな。 ・人類にとって大切なものではないかな。 </div>	<p>自分が読み取った「海にある宝物」を書いている。(観察・ワークシート)</p>	<p>黒板に掲示した第1意味段落(問題提示)の文章を読む。 「海にある宝物」を探しながら、私たちの未来について考えることを知る。 学習が定着していない児童でも学習の見通しがもてるように、読みの視点を明確にして、単元の導入を行う。【工夫】 全文を読み、自分が読み取った「海にある宝物」を書く。 形式段落に番号を付け、3つの意味段落に分ける。 自己評価をする。 児童の意欲や理解を確認するために、自己評価を行う。【工夫】</p>
2	<p>中心となる語や文の関係を押さえながら、サメの事例・海綿の事例を読み取る。</p>	<p>「サメの事例」での読み方を生かして、指示語などに着目しながら「海綿の事例」の中心となる語や文にサイドラインが引けている。(観察・サイドライン)</p> <p>ポンポー二博士の海綿の研究に対する自分の感想を書いている。(付箋)</p> 	<p>「サメの事例」を読み、「海にある宝物」について考え、学び方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章を読む。 2 「海にある宝物」がわかる中心となる語や文に青鉛筆でサイドラインを引く。 3 サイドラインを引いた語や文を発表する。 4 全体で話し合い、特に重要な中心となる語や文は何か考え、赤鉛筆でサイドラインを引く。矢印などの記号を使い語句と語句を関係付ける。 5 研究に対する自分の感想を付箋に書く。 </div> <p>繰り返し出てくる語句に着目するよう助言する。【工夫】 「サメの事例」での読み方を生かして、「海綿の事例」を読み、「海にある宝物」について自分で考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習の流れ</p> <p>1 ~ 5</p> </div> <p>自己評価をする。</p>
3 (本時)	<p>第2意味段落(事例)を読み、3つの事例の共通点を読み取る。</p>	<p>書かれている内容を的確に読み取り、3つの事例に共通する「海にある宝物」とは何かについて考えている。(観察・ワークシート)</p> 	<p>前時の学習を生かして、「カプトガニの事例」を読み、「海にある宝物」について自分で考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習の流れ</p> <p>1 ~ 5</p> </div> <p>3つの事例に共通する「海にある宝物」について考える。 筆者がどのような事実に基づき、どのような論理を用いているか考えさせる。【工夫】 本文の叙述をそのまま抜き出すだけで答えが書けるワークシートも用意する。【工夫】 中心となる語(「生きるためのちえ」)が書かれている児童には、発展的な問題のワークシートを用意する。【工夫】 自己評価をする。</p>

4	第3意味段落(まとめ)を読み、「海にねむる未来」の要旨をとらえる。	<p>中心となる語や文の関係を振り返り、要旨をとらえている。(ワークシート)</p> 	<p>第3意味段落を読み、筆者の考える「海にある宝物」について考える。 第2意味段落にある3つの事例が筆者の考えを支える根拠となっていることを確認する。 【工夫】 「要旨」について知る。 文章の構成と中心となる語や文について振り返る。 「海にねむる未来」の要旨をとらえる。 自己評価をする。</p>
5	未来に対する自分の意見をもつ。	<p>付箋に書いた感想をもとに、未来に対する自分の意見を書いている。(ワークシート)</p> 	<p>全文を読み、これまでの学習を振り返る。 自分の意見を書いた付箋を整理する。 付箋を整理しながら自分の意見を明確にさせる。【工夫】 付箋をもとに、未来に対する自分の意見をワークシートに書く。 書き終わったら、「交流コーナー」へ行き、お互いの意見文を読み合い、感想を交換する。 自己評価をする。</p>

(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だてについて)

	成 果	課 題
単元構成	「海にある宝物とは何か」を発問の中心にすることで、事例を比較して読むことができた。	・学習材の特徴をつかんで発問を吟味する必要がある。
サイドライン	色分けをしてサイドラインを引くことによって、発問に対する考えを深め、その根拠を明らかにすることができた。	・サイドラインを引いた発問に対する中心となる語や文をさらに関係付け重要語句を視覚的にとらえるための工夫が必要である。
付箋	各時間に自分の考えを書くことで要旨に対する自分の意見をまとめるのに役立てることができた。	・叙述に基づいた自分の考え(感想)を具体的に書く指導が必要である。
ワークシート	ワークシートを毎時間評価することでヒントを書き込んだり、別のワークシートを用意したりして、個に応じた指導ができた。	・別のワークシートの提示の仕方を考える必要がある。

高学年第2分科会

1 分科会研究主題

「要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫」

2 高学年第2分科会の実践 10月実施

(1) 単元名「生き物のつながりを考えよう」

学習材「生き物はつながりの中に」 (平成17年度版 光村図書 6年上)

(2) 単元の目標

内容を的確に押さえながら要旨をとらえ、要約する。

書かれている内容について、事例と感想、意見の関係を押さえ、生き物の特徴について自分の考えをもちながら読む。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「生き物はつながりの中に」について、自分の考えを広げたり深めたりするために進んで読もうとしている。	・筆者の叙述の仕方を利用しながら、気を付けるべきポイントを意識して要旨をとらえている。 ・生き物の特徴について、自分なりの考えをもっている。	・はじめ(問題提示)・中(例示・問題提示の答え)・おわり(筆者の主張)の文章構成を理解している。 ・筆者の叙述の仕方を利用して、自分の考えをまとめている。

(4) 研究主題に迫るための手だて

【工夫】論理的な思考力を育てる指導の工夫

既習事項を確認し、読みの意欲をもたせるための学習過程の工夫

説明的文章を読むための学習の手引きを活用することで、学習内容や方法を理解し、自ら学習を進めていけるようにする。

文章構成について理解し、自分の考えをもつための学習活動の工夫

文のまとめりごとに感想を書き留めていくことで、自分の考えを明確にさせるようにする。

文章構成を図に表し、段落相互のつながりについて考えを深められるようにする。

全文を要約させ、筆者の論の展開について理解を深められるようにする。

自分の立場を明確にし、相手と比べて自分の考えを広げ、深める場の設定の工夫

意味段落や学習の最後の感想・意見を交流させ、感想や意見をもつための視点に気付き、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

【工夫】個に応じた指導と評価の工夫

一人一人の読む力や課題・関心に応じた指導の工夫

段落ごとのヒントカードを用意し、内容をつかめるようにする。

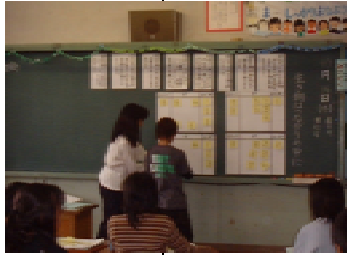
「学習形態によるグループ別学習」を取り入れることにより、児童一人一人が自分に合った学び方を選択でき、教師側にとっては効果的な指導ができるようにする。

一人一人の学習状況に応じた指導を行うための個別支援計画の工夫

前時の学習から一人一人の学習状況を評価し、指導のねらいを明確にすることで効果的に支援できるようにする。

(5)学習指導計画・評価計画(7時間扱い)

(検証授業の本時 5/7)

時間	各時間の目標	学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)	主な学習活動 研究主題に迫るための手だて
1	生き物のつながりについて自分なりに考え、読みのめあてをもつ。	問題提示文を探し出している。 (ワークシート)	学習の手引きを基に学習内容を見通す。【工夫】 形式段落1を読み、問題提示文を探す。 全文を読み、学習計画を立てる。
2	形式段落2から4を読み、生き物の特徴1を読み取る。	要点になる重要語句にサイドラインを引いている。 (ワークシート)	形式段落2～4を読み、要点をまとめる。 要点を見付けるために学習の手引きを確認する【工夫】 <学習の流れ> (1)文章を読む。 (2)重要語句にサイドラインを引く。 重要語句を見付けるために形式段落ごとのヒントカードを用意する。【工夫】 (3)重要語句を発表し、全体で話し合っって要点となる語句を決める。(赤鉛筆) (4)各形式段落の要点を付箋に書く。
3	形式段落5から7を読み、生き物の特徴1を読み取る。 文章に沿って、自分の考えや感想をもつ。	要点になる重要語句にサイドラインを引いている。 (ワークシート) 読み取った生き物の特徴に対する、自分の考えを書いている。(付箋)	効果的な指導をするために、児童に合ったグループで学習させる。【工夫】
			<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #00FFFF;">「自分で」グループ(自分で学習を進めるグループ)</td> <td style="background-color: #00FFFF;">「友達と」グループ(友達と話し合いながら学習を進めるグループ)</td> </tr> </table> 形式段落5～7を読み、要点をまとめる。 重要語句を見付けるために形式段落ごとのヒントカードを用意する。【工夫】 感想を書き、交流する。 相手と比べて自分の考えを広げ深めるために感想交流をさせる。【工夫】 小見出しを付ける。 一人一人の学習状況に応じた指導を行うために、個別支援表を活用する。【工夫】
「自分で」グループ(自分で学習を進めるグループ)	「友達と」グループ(友達と話し合いながら学習を進めるグループ)		
4	要点を手がかりに、段落のつながりを考え、文章構成を図に表す。 	段落のつながりを理解し、文章構成を図に表している。 (ワークシート)	効果的な指導をするために、児童に合ったグループで学習させる。【工夫】
			<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #00FFFF;">「自分で」グループ</td> <td style="background-color: #00FFFF;">「友達と」グループ</td> </tr> </table> 形式段落8を読み、要点を付箋に書く。 重要語句を見付けるために形式段落ごとのヒントカードを用意する。【工夫】 感想を書き、交流をする。 相手と比べて自分の考えを広げ深めるために感想交流をさせる。【工夫】 今までの付箋を利用し、文章構成を図に表す。 段落相互のつながりを考えるために、文章構成の図を作成させる。【工夫】 一人一人の学習状況に応じた指導を行うために、個別支援表を活用する。【工夫】
「自分で」グループ	「友達と」グループ		
5 (本時)	文章構成を表す図をもとに、文章全体を要約する。	大事なところを落とさず、要約している。 (ワークシート)	文章構成を表す図を見ながら、各段落の要点の軽重を考えて整理する。 要点をつなぐ言葉を考えながら要約する。 一人一人の学習状況に応じた指導を行うために、個別支援表を活用する。【工夫】

6	生き物のつながりについて自分の考えや感想を書く。	筆者の意見に対して、自分の考えを書いている。(ワークシート)	生き物のつながりについて自分の考えや感想を書く。 <感想を書く視点> (1)最初に自分が考えた生き物のつながりと筆者の考えとを比べる。 (2)意味段落ごとの自分の感想をふくらませる。 (3)「生きていることはすてきなこと」という筆者の主張についての考えを書く。 意味段落ごとに感想を書かせ、感想や意見をもつための視点に気付かせる。【工夫】
7	生き物のつながりについて、自分の考えを広めたり、深めたりする。	自分の意見と友達の意見の共通点・相違点について書いている。(付箋)	「生き物のつながり感想交流会」を開く。 友達の感想を読み、自分の意見や考えを付箋に書き、交流する。 相手と比べて自分の考えを広げ深めるために感想交流をさせる。【工夫】

(6) 検証授業の成果と課題（研究主題に迫るための手だてについて）

	成 果	課 題
学習の手引き	手引きを活用することにより、学習方法や内容を理解して主体的に学習できた。	
文章構成図	文章構成を図に表すことは、筆者の論の展開をとらえ、要約する際に役に立った。	
ヒントカード	段落ごとのヒントカードを用意することは、要点を見付ける支援となり、また意欲付けの手だてともなっていた。	・ヒントカードを使う場合と教師の助言が必要な場合についてさらに検討する。 ・児童に考えさせるヒントの工夫が必要である。
個別支援表	個別支援表を活用することで、児童の学習状況の把握ができ、教師側は指導のねらいをより明確にし、効果的な支援ができた。	・支援するために活用しやすい形式を工夫する。
グループ別学習	グループ学習により、習熟度に応じて効率よく指示や支援ができた。 自分にあったグループを選ぶことにより、児童は意欲的に学習に取り組むことができた。	・自分に合ったグループを選ぶことに悩んでいる児童には、教師の助言が必要である。 ・学習計画に合ったグループ別の活動の工夫が必要である。
要約	要約文を書くことにより、筆者の主張の軽重を考え、論の展開を理解することができた。 要約文を書くことで、説明的文章の構成や論理の展開を理解し、筆者の論の展開に沿って感想を書くことができた。	・要約の際に、要約の手順を明確に示す。
感想	感想を書く学習は、もう一度筆者の主張を考えるきっかけとなり、論の展開の理解が深まった。 意味段落ごとの感想を書くことにより、筆者の考えの根拠をとらえて、それについての自分の考えをもつことができた。	・感想を書くための支援を明確にしておく。

研究の成果と課題

1 論理的な思考力を育てる指導の工夫

「論理的な思考力を育てる読むこと」の評価規準表を作成したことにより、「読むこと」の学習において身に付けさせたい論理的な思考力を明確にすることができた。論理的な思考力を育てる視点で「事実や意見等を区別して読み取る力」「筆者の意見等を支える根拠や理由を読み取る力」「文章構成や論理の展開に沿って内容を読み取る力」「事実や根拠に基づいて自分の考えをもつ力」という4つの観点から整理した。この評価規準に沿って、低学年、中学年、高学年のつながりを考えた具体的な手だてをたて、さらに年間指導計画の修正や重点化を進めたい。

学習過程を工夫したことで、児童が読みのめあてをもち、見通しをもって学習を進めることができた。単元の中で学習活動の繰り返しを設け、児童が学び方を身に付けながら、自分の考えを主体的にもてるようにした。

読み取りをする過程でサイドラインを引くことは、筆者の論理の展開を確かめられるだけでなく、自分がどのくらい確実に読み取れたのかということを見通しを児童自身が評価できるということも分かった。また、サイドラインを色分けしたり、具体物や付箋を活用したりするなど発達段階に応じた工夫をし、次の読みの学習につなげたことは、読みのめあてを達成させるのに有効であった。さらに、言葉を手がかりに読み深める学習方法を探る必要がある。

文章構成をつかむ活動では、接続語を手がかりにしたり、問いと答えあるいは文章構成を表す図にまとめたりするなど発達段階を考慮した学習活動を進めた。このことは、筆者の論の展開を学ばせるのに有効であった。今後は、自分の考えを、論理的な組み立て方や思考の仕方を生かして表現するための指導の手だてを工夫する必要がある。

2 個に応じた指導の工夫

学習形態や学習方法を工夫したことは、一人一人の学習状況に応じた指導として有効であった。グループ別学習では、自分に合った支援が受けやすくなったり、自分の学習しやすい形態を選んだりして、児童は学習への意欲を高めていた。また、ヒントカードやワークシートを数種類用意し、必要に応じて選択させたことは、読みのめあてに向かって学習するだけでなく、児童自身が学習状況を把握する力も育てることができた。今後はさらに、効果的なグループ別学習の設定の在り方について検討していく必要がある。

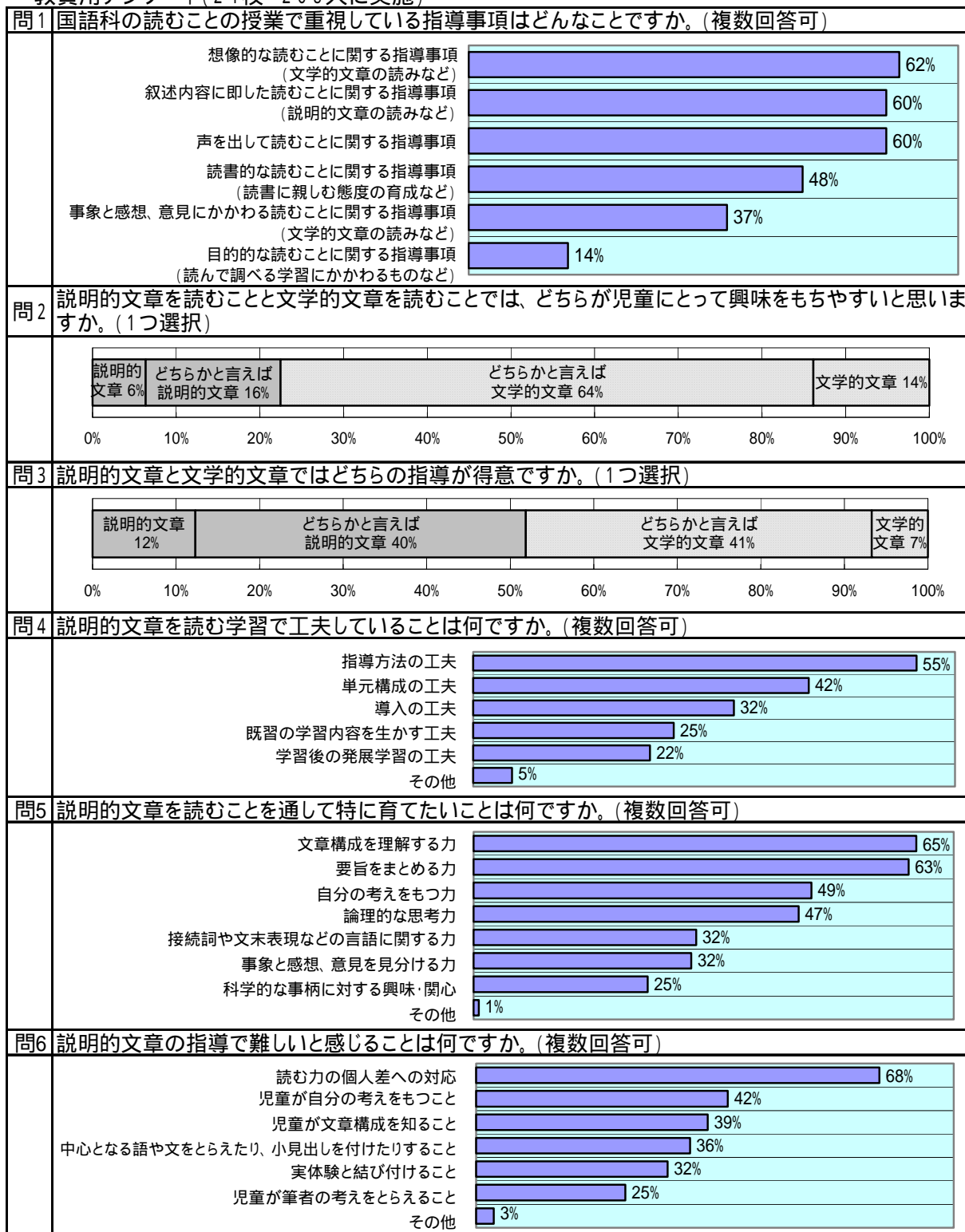
個別支援表を作成し活用することで、児童の学習状況を把握しポイントを絞った指導をすることができた。1時間の授業の中で全ての児童の評価をすることは難しいが、授業後にワークシート等から学習状況を把握して記入した。一覧表にすることで個々のねらいに沿った効果的な指導をすることができた。さらに形式を工夫し、個に応じた指導の中で生かしていきたい。

自分に身に付いた力を確認したり、読みの力に即しためあてを選んだりできる自己評価カードを使うことで、児童は次時を見通し、学習意欲を高めることができた。しかし、どのようなめあてを選ぶか戸惑う児童には、教師の助言が不可欠である。さらに、発達段階や単元のねらいに応じ、自己評価カードの観点を検討する必要がある。

資料

1 「説明的文章を読むこと」に関する意識調査

教員用アンケート(24校 268人に実施)



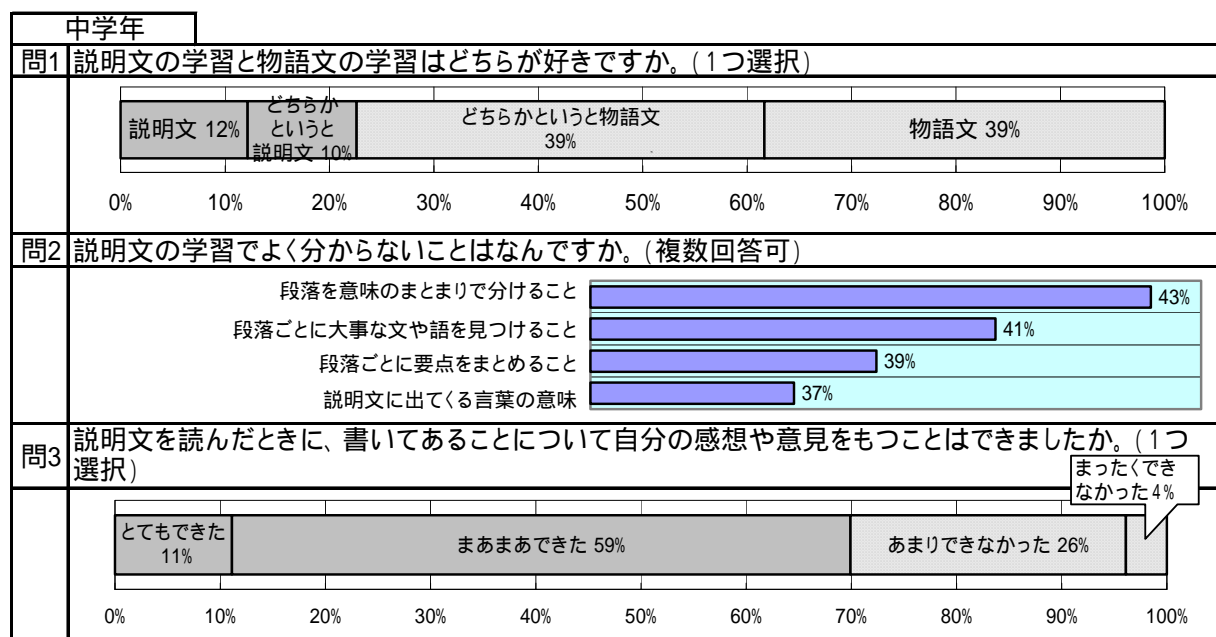
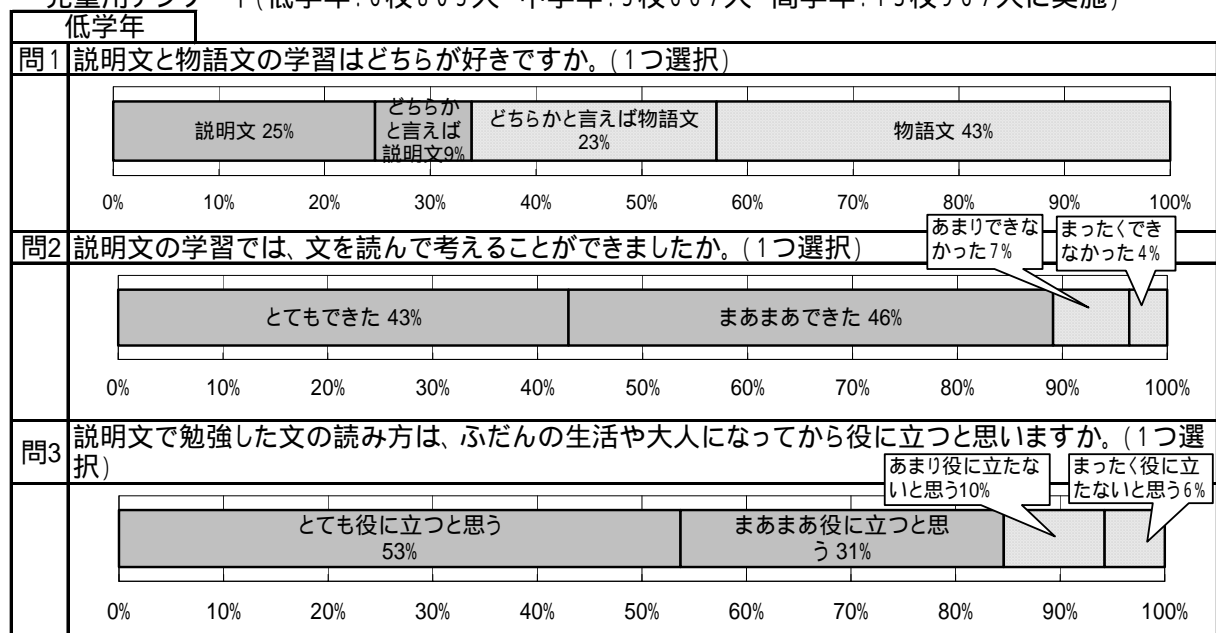
問1より「想像的な読み」「声を出して読む読み」「叙述内容に即した読み」の指導事項を教師が重視していることが分かる。だが一方で、「事象と感想、意見にかかわる読み」や「目的的な読み」など論理的な思考力を育成する指導事項が下位に位置している。

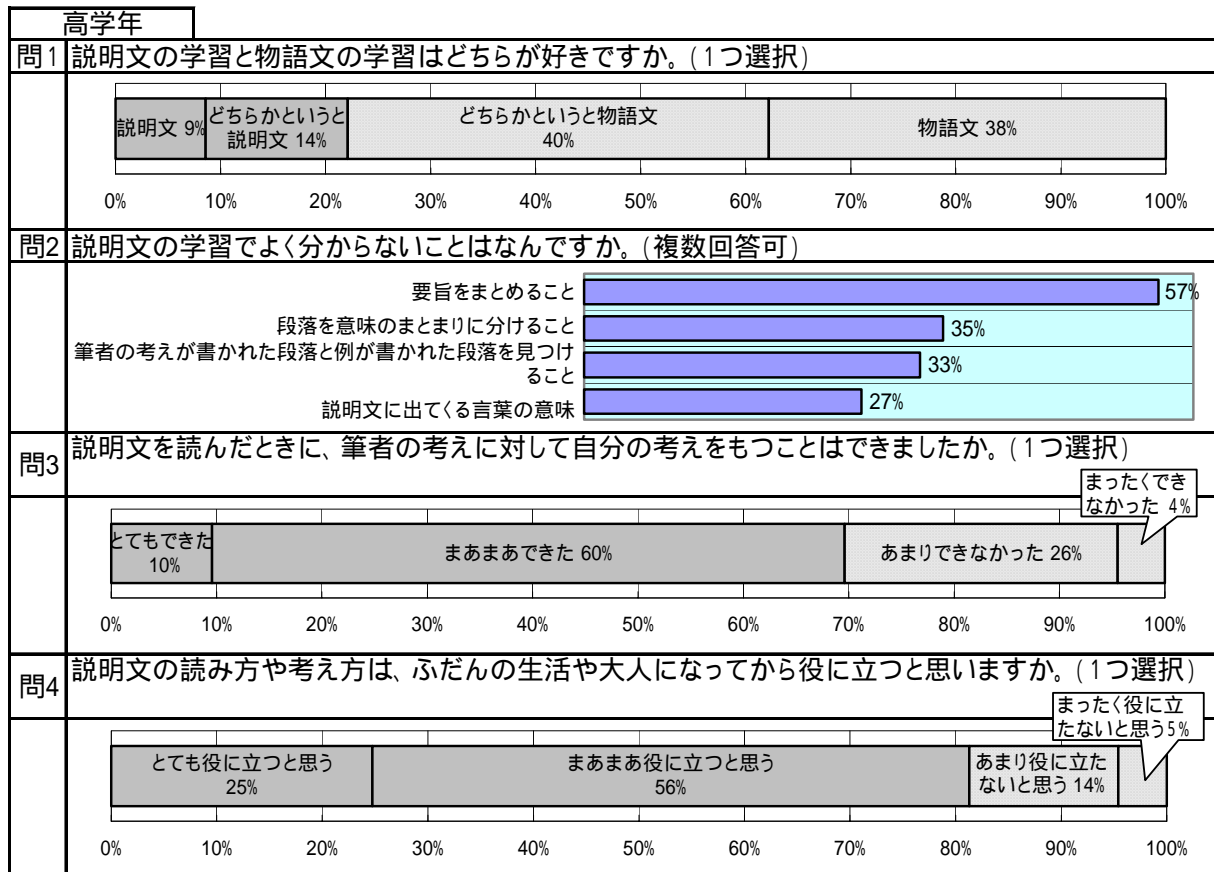
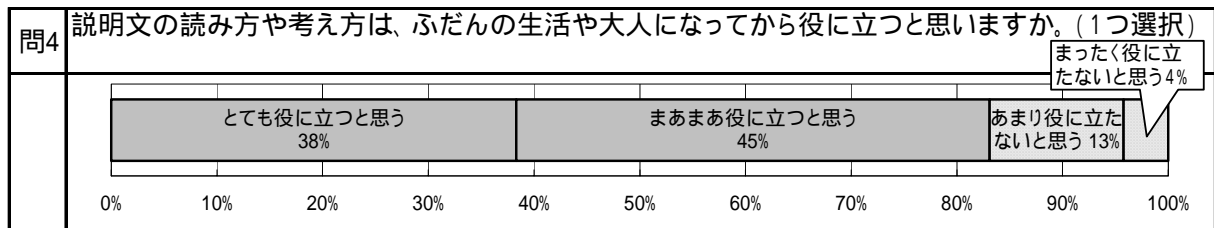
問3から、教師の説明的文章と文学的文章の指導についての自信には大きな差があるとは

言えない。しかし、問2の結果のように、教師は児童が説明的文章より文学的文章の読みに興味を示すであろうと考えており、自分の指導が必ずしも児童の興味をひきつけていないことを感じていると思われる。実際、児童のアンケートの結果でも、説明的文章の授業は好まれていない。その理由として問4の下位に位置している「学習後の発展学習の工夫」「既習の学習内容を生かす工夫」が十分になされていないことが理由の一つと考えられる。また、問5の上位にある「文章構成を理解する力」「要旨をまとめる力」に指導の重点を置くあまり、その基礎となる言語事項など既習の学習の指導が十分でないことも理由の一つと考えられる。このことは問6の結果として「個人差への対応」が最も多かったことにもつながっており、個に応じた指導の中で対応していかななくてはいけないと思われる。

以上のことより、基礎的・基本的な内容の定着を図るために指導事項を見直し、個に応じた指導や学習過程を工夫し、指導の改善をする必要があると考える。

児童用アンケート(低学年:6校805人 中学年:5校667人 高学年:13校967人に実施)





アンケートの問3(低学年 問2)より、児童は説明的文章を読み、自分の感想や意見、考えをもつことはおおむねできているとされていることが分かる。また、問4(低学年 問3)より、学習の価値についても感じていることが分かる。だが、問1に表れているように児童は説明的文章よりも文学的文章の方を好んでいる。この傾向は、高学年になるにしたがって顕著である。つまり、説明的文章を読む楽しさを十分感じているとは言えない。そこで、説明的文章の読みにおいては、楽しさを感じる授業に改善していく必要があると思われる。

また、中学年においては、問2の結果から分かるように、学習内容のどの項目においても4割程度の児童がよく分からないと答えている。これらのことから、指導の工夫・改善をし、中学年で身に付けるべき学習内容を確実に定着させることができれば、児童は、説明的文章を理解でき、説明的文章を読む楽しさを味わうことができると考える。

また、高学年では、問2の結果から分かるように、学習内容のどの項目においても3割強の児童がよく分からないと答えている。特に要旨をまとめることにおいても、6割強の児童がよく分からないと答えており、指導の改善が求められる。そこで、高学年の児童の説明的文章の読みにおいては、筆者の論理を検討する楽しさを感じる授業に改善していくとともに、高学年で身に付けるべき学習内容の定着を図る指導の工夫が必要であると思われる。

2 「論理的な思考力を育てる読むこと」の評価規準表

評価の観点		低 学 年	中 学 年	高 学 年	
論 理 的 な 思 考 力	事実や意見等を 区別して読み取る力	国語への 関心・意欲・態度		○大事なこととそれを支えることの区別をしようとしている。	筆者の考えと事実を区別しながら読もうとしている
		読む力		○大事なこととそれを支えることの区別をしながら読んでいる	筆者の考えと事実を区別しながら読んでいる。
		言語についての 知識・理解		○大事なこととそれを支えることを区別するための接続語や文末表現の言葉をおさえている。	文章構成や文末表現などを手がかりに、筆者の考えと事実を区別している。
	筆者の意見等を支える 根拠や理由を読み取る力	国語への 関心・意欲・態度	大事な言葉を見つけて、内容の大体を読もうとしている。	○中心となる語や文を選び出そうとしている。	的確に文章の内容を読み取り、要旨をとらえようとしている。
		読む力	順序や内容を表す大事な言葉に気をつけて、内容の大体を読んでいる。	中心となる語や文をとらえて文章を正しく読んでいる。	中心となる語や文の関係を押さえ、的確に文章の内容を読み取り、要旨をとらえている。
		言語についての 知識・理解	主語と述語の関係に注意している。	接続語、文末、繰り返し語句などの言葉をおさえている。	接続語や指示語の役割を理解し、文末表現をおさえている。
	文章の構成や論理の展開に沿って 内容を読み取る力	国語への 関心・意欲・態度	大事な言葉から、文章のまとめりや内容の大体をとらえて読もうとしている。	○段落相互の関係をとらえ内容の中心を読み取ろうとしている。	文章構成をとらえようとしている。
		読む力	文章のまとめりがわかり、事柄の順序やつながりに気をつけて読んでいる。	文章全体における段落の役割や段落相互の関係をとらえながら読んでいる。	文章構成を理解し、筆者の主張の軽重をとらえながら読んでいる。
		言語についての 知識・理解	指示語や接続語に気をつけて読んでいる。	○文章全体における段落の役割について理解している。 接続語や指示語を理解している。	文章にはいろいろな構成があることについて理解している。
	事実や根拠に基づいて 自分の考えをもつ力	国語への 関心・意欲・態度	自分なりの疑問や感想をもって読もうとしている。	○自分なりの考えをまとめようとしている。	筆者の意見や感想について、自分の考えを明確にしながら読もうとしている。
		読む力	様子や事柄を思い浮かべ、疑問や感想をもちながら読んでいる。自分の感想の根拠を叙述や経験に結び付けて読んでいる。	○読み取った内容についての意見や感想をまとめている。 友達との交流を通して自分の考えを見つめ直している。	筆者の意見や感想について、自分の考えを明確にしながら読んでいる。
		言語についての 知識・理解	自分の感想の基となる言葉や文に気付いている。	○自分の考えの根拠となる語句や文に気付いている。	自分の考えを表現する際に、根拠となる語や文を適切に用いている。

平成16年度 教育研究員名簿（ 国語 ）

分科	区市町村名	学 校 名	氏 名	担当
低 学 年	文 京 区	誠 之 小 学 校	上 羽 明 子	1 年
	豊 島 区	池袋第二小学校	宇都宮 晴美	1 年
	板 橋 区	志村第二小学校	武 田 伸 子	2 年
	八王子市	大和田小学校	久保田 絵美	2 年
	多 摩 市	聖ヶ丘小学校	小 林 邦 子	2 年
	あきる野市	一の谷小学校	石 井 幸 恵	2 年
中 学 年	杉 並 区	高井戸第四小学校	岩 本 里 美	3 年
	足 立 区	梅島第二小学校	橋 爪 純 子	3 年
	国 立 市	国立第五小学校	石 上 洋 子	3 年
	清 瀬 市	清瀬第四小学校	風見 美輪子	3 年
	品 川 区	大間窪小学校	佐 藤 宏 子	4 年
高 学 年 第 一	港 区	筭 小 学 校	馬 場 一 平	5 年
	江 東 区	第五大島小学校	飯 田 学	5 年
	目 黒 区	上目黒小学校	原 田 啓 子	5 年
	大 田 区	羽 田 小 学 校	地 濃 厚 子	5 年
	世田谷区	松 丘 小 学 校	市 川 直 子	5 年
	北 区	赤 羽 小 学 校	富 永 大 優	5 年
	立 川 市	第 三 小 学 校	米 山 剛	5 年
高 学 年 第 二	江 東 区	第一大島小学校	岡 庭 雪 子	6 年
	中 野 区	野 方 小 学 校	佐 伯 孝 司	6 年
	① 飾 区	白 鳥 小 学 校	三 浦 一 輝	6 年
	江 戸 川 区	篠崎第三小学校	加 藤 勇 祐	6 年
	府 中 市	矢 崎 小 学 校	高 野 れい子	6 年
	日 野 市	平 山 小 学 校	竹 山 久 実 子	6 年

全体世話人

全体副世話人

分科会世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 小宮山 郁子
指導主事 坂西 圭子

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社